

会報 エコネットはんのう

編集・発行／はんのう市民環境会議

外来生物について

外来生物とは？

もともとその地域にいなかったのに、人間の活動によって他の地域から持ち込まれた生物のことを指します。

外来生物は生態系にどんな影響を及ぼす恐れがある？

- ① 地域の固有の生物である「在来生物」を捕食したり、在来生物の生息場所等を奪い取る。
- ② 寄生生物やウイルス等が持ち込まれ、対抗する手段のない在来生物にダメージを与える。
- ③ 近縁の在来生物と交配し、長い時間をかけて育まれた在来生物の遺伝的な独自性が失われる。

特定外来生物とは？

もともと日本にいなかった外来生物のうち、生態系などに被害を及ぼすものは「特定外来生物」として指定され、飼育・栽培・保管・運搬・販売・譲渡・輸入が原則として禁止されています。

特定外来生物の種数

分 類 群	種数	例
哺乳類	20	アライグマ、クリハラリス、フクロギツネ など
鳥 類	4	ガビチョウ、ソウシチョウ など
爬虫類	13	カミツキガメ、グリーンアノール など
両生類	11	オオヒキガエル、ウシガエル など
魚 類	13	コクチバス、オオクチバス、ブルーギル など
クモ・サソリ類	5	ハイイロゴケグモ、セアカゴケグモ など
甲 殻 類	5	ウチダザリガニ、ラスティークレイフィッシュ など
昆虫類	8	セイヨウオオマルハナバチ、ヒアリ など
軟体動物等	5	カワホトトギスガイ、ヤマヒタチオビ など
植 物	12	オオキンケイギク、アレチウリ など

身近な特定外来生物

飯能のごく身近な所でも見られる「特定外来生物」のうち、3つを紹介します。

その① アライグマ



原産地：北アメリカ

- 特徴：
- ・体重 4～10 数 kg。
 - ・頭胴長 約 40～60cm。
 - ・尾長 約 20～40cm。
 - ・白色の顔に黒色系のマスクを着けたような外見で 4～7 の輪模様を尾に持つ。

取り扱い：むやみに手を出すと、かみつかれたりして大変危険です。見つけたら、市役所環境緑水課へ連絡してください。

その② コクチバス

原産地：北アメリカ

特徴：

- ・全長 30～50cm。

- ・オオクチバスに似るが、口は小さくて上あごの後端が眼の中央下まで達しない（オオクチバスでは上あごの後端が眼の後端の直下よりも後方に達する）。
- ・湖沼や河川の中下流域に生息。
- ・低水温に対する耐性が強く、また流水域にも適応できる。



写真提供 水産研究所

取り扱い：埼玉県内水面漁場管理委員会では、コクチバスのリリース（採捕したその場に戻すこと）禁止の委員会指示を行っています。また、コクチバス、オオクチバス、ブルーギルの移植（他の水域へ移動させること）については、法律で禁止されています。

その③ オオキンケイギク



原産地：北アメリカ

- 特徴：
- ・キク科の多年生草本。
 - ・高さ 0.3～0.7m 程度。
 - ・路傍、河川敷、線路際、海岸などに生育。
 - ・開花期は5～7月。

取り扱い：①新たに植えたり、植え替えたり、種をまいたりすることはできません。
②鉢植えや花壇で育てることは栽培となるためできません。

③自然に生えてきたものであっても、水やりをしたり、手入れをしたりするのは栽培にあたります。（放置している限りは栽培にはあたりません。）

④管理下にある敷地内で「自然に生えている」こと自体は違法状態とはいえませんが、分布拡大防止の観点から、できるだけ駆除することが望ましいです。

11月～2月の活動報告

《はんのう生活祭》 11月15日（日）

3部会合同により、各部会活動や天覧山谷津の里づくりプロジェクト事業の写真等を展示しました。当日は晴天に恵まれ、ソーラークッカーによるポップコーン、目玉焼きの実演を行い、好評でした。また、環境に関するクイズを行い、温室効果ガス削減等をPRしました。



クイズに答える参加者



ソーラークッカー

《エコライフ DAY2009（冬）》 12月13日（日）

事業所、小・中学生や教職員のご協力により4,280人の参加があり、二酸化炭素削減量は約3.5tでした。

《里山づくりシンポジウム～飯能のみどりを次世代へ引き継ぐために～》 2月21日（日）

東京農工大学名誉教授の亀山章先生から「里山の過去・現在そして未来」の演題で、過去・現在・未来の里山を見る目などについてご講演をいただきました。その後、飯能市が実施した天覧山・多峯主山エリアの自然環境調査のプレゼンテーションを行い、はんのう市民環境会議、市民、NPO 法人天覧山・多峯主山の自然を守る会、西武鉄道㈱、飯能市によるパネルディスカッションを行いました。参加者は180名でした。



森林文化講演会



パネルディスカッション

《自然環境部会》 2月14日（日） 自然観察会「冬の里山バードウォッチング」の巻

駿河台大学名誉教授の内田康夫先生に案内をお願いしました。前日降った雪が残る冬の里山では、ルリビタキ、シメ、シロハラ、ホオジロ、カシラダカ、エナガなどが観察できました。最後に、東谷津でヤマアカガエルの卵を見て帰りました。参加者は13名でした。

《地球環境部会》森のようちえん 森づくり事業協力

11月15日(日)

はんのう生活祭で、活動報告パネルの展示とポット苗の配布を行いました。

11月25日(水)

園内整備とウルシ抜き作業を行いました。

12月6日(日) イベント『初冬の森の観察会とドングリの種まき』

ドングリの種まきとフユイチゴ狩りを行いました。

2月24日(水)

しいたけ菌の植え込みと巣箱の掛け替えを行いました。



《3部会合同会議》

11月28日、1月23日、2月27日(いずれも土曜日の午後7時から9時まで)

里山づくりシンポジウム、天覧山谷津の里づくりプロジェクト、西武鉄道の保全計画、天覧山一帯の保全計画などについて話し合いがありました。

《天覧山谷津の里づくりプロジェクト》

11月22日(日) 第4回 里山復活祭『谷津田の整備を楽しもう!』

48名が参加し、低灌木の伐り払いや田んぼづくり、水路整備、レンゲソウの種まきなどを行いました。また、駿河台大学アカペラサークル a c p の歌を聴きながら、てんたの会・西川木楽会の方の調理により炊き込みご飯とキノコ汁をいただきました。



レンゲソウの種まき



駿河台大学アカペラサークル a c p によるライブ

1月24日(日)

間伐材を使ってあぜ道づくりをしました。参加者は28名でした。

2月28日(日)

雨天のため中止になりました。

編集後記：

今年もスギ花粉の飛散がピークとなる時期を迎えました。昨年に較べると全国的に若干少なめの予測ですが、花粉症の方々には憂鬱な毎日であろうと存じます。環境省は2002年に「花粉観測システム(愛称：はなこさん)」を立ち上げ、毎年この時期になると、全国134地点の花粉飛散状況をホームページで公表しています。埼玉県には4ヶ所の測定局がありますが、その内の1ヶ所は飯能市役所です。各地点の花粉飛散量や気温、風向・風速などをリアルタイムで知ることが出来ます。花粉対策グッズが、いろいろ発売されていますが、外出する際の「お出掛けツール」の一つとして「花粉観測システム」の活用をお勧めします。

(広報委員長：伊藤知夫)